

貯水タンクは、いのちの水ガメです！

阪神淡路大震災では、緊急時に水を確保する事の重要性が教訓となりました。その水の確保に、建築物の多くに設置されている《貯水タンク》がいのちを守る重要な設備として再認識されています。

災害時、貯水タンクが 水があったら！



緊急時にトイレ・洗面の水に使える！



飲み水・調理の水確保で、体調を保てる！



災害時の初期消火活動がスムーズに。



災害時のけが、傷を治療するための水。

例えば、東京都台東区だけでも貯水タンク設備箇所が約2万箇所あります。

その貯水タンクが平均10トンの水を貯水していると仮定すれば、

万一災害等で水の供給がストップしても20万トンもの水が確保でき、いのちを守ります。

でも、“タンクが壊れていなければ”の話です。

だから問題が起きる前に、リユース工法会で予防の補強・補修を!!

貯水タンクのトータルメンテナンス

(財)大阪産業創造館認定事業

貯水タンクリユース工法会

リユース工法の革新的技術で 貯水タンクは「いのちの水ガメ」に 生まれ変わります。

■知らないうちに貯水タンクは、
想像以上に劣化が進行。

FRP製の貯水タンクは、その耐久性が半永久的であるとされてきましたが、実際には、水が上下する負荷や太陽光線中の紫外線、また熱・風雨等の様々な要因によって確実に劣化していきます。設置後15年経過した貯水タンクのFRP曲げ強度を計測した結果、平均して製造時の60%以下になっていました。FRP製の貯水タンクは、予想以上にFRPの劣化が進行しており、突然の破壊という思わぬ事故も発生するわけです。



破壊寸前のFRPパネルタンク

リユース工法で補強後のFRPパネルタンク



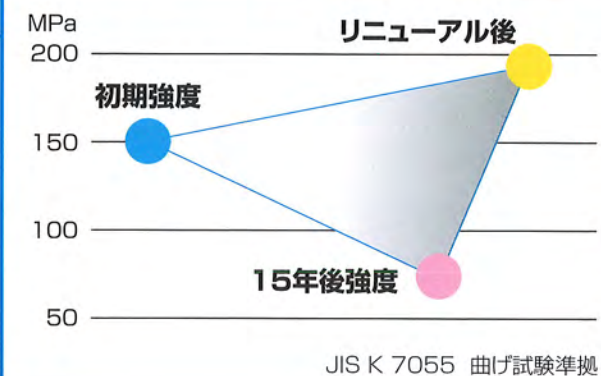
■万が一に備えて、
日頃からしっかりメンテナンスを。

阪神淡路大震災では、まず2次災害での初期消火に水がなく被害が広がりました。次にけが人の治療にも水が足りなかった、それに余り知られていませんが、水が足りなかったため水洗トイレが使えなかった、すると人々はトイレを我慢するので救援物資で届いた飲料水を飲まないのです。それが冬期でありながら脱水症状をまねいて、地震のストレスと共に心筋梗塞や脳溢血等の突発的な病気で倒れたり、亡くなった人がたくさんおられたということです。従って問題が起きる前に予防処置として修理・補強を行い、日頃から地震や風雨に耐えられるようにしておく必要があります。

■リユース工法の修理・補強なら
タンク強度がアップします。

右の図のように、設置後約15年が経過した貯水タンクのFRPは、曲げ強度が初期の強度に比べて約60%になっています。この劣化して強度が低下したFRPにリユース工法でFRPを積層して補強してやれば、初期強度の約120%に強度を回復する事が可能です。つまり新品の貯水タンクよりも強くなります。適切な時期に適切な補強を施してあげれば、貯水タンクを取り替えることなく使用でき、安心・安全な水を確保できるわけです。また貯水タンク取替に比べてコストは1/2以下で済み、昨今問題になっているFRP製品の産業廃棄物化を防止することにもなります。

リユース工法での強度回復率



貯水タンクリユース工法会

事務局/きんぱね株式会社

本社/〒531-0074 大阪市北区本庄東2-13-11

TEL 06(6359)6572 FAX 06(6359)6587

URL <http://www.タンクの修理.com>

お問い合わせは工法会会員